

## 濱木綿

ヲ生ズ、

〔大和本草九雜草〕濱木綿 ヲモトニ似タリ、俗名ニハマヲモトトモ云、海邊ニ生ズ、七八月白花ヲヒラク、莖高クノビテ只梢ニ數花アツマリヒラク、卷丹ノ花ノ形ニ似タリ非好花、季秋結實、花サキタルアトニ數顆ミノル、一顆ノ大如胡桃、内ニ無核有、白肉、萬葉集第四柿本人丸歌云、ミクマノ、ウラノハマユフモ、エナルコ、ロハ思ヘドタバニアハヌカモ、仙覺抄云、濱ユフハ芭蕉ニ似テチイサキ草也、莖ノ幾重トモナクカサナリタル也、ヘギテ見レバ、白クテ紙ナドノヤウニヘダテアルナリ、大臣大饗ナドニハ、鳥ノ別足ツ、マンレウニ、三熊野浦ヨリシテノボセラル、トイヘリ、綺語抄云、濱ユフハ芭蕉葉ニ似タル草、濱ニ生ル也、莖ノ百重アルナリ、篤信曰、今按ニ西土ニモアリ、ハマバセウト云、紀州熊野ノ濱ニ多シ、甚雪寒ヲ畏ル、宅中ニウヘテハ冬月ワラニテアツクツ、ミ、或コモヲ以オホフベシ、不然枯ル、益ニウヘテ屋下ノ暖處ニヲクベシ、海濱ニアリテハ潮風温ニシテ雪早ク消ルユヘカレズ、二種アリ、一種ハ葉柔薄、其莖ノ皮多ク重レリ、是百重ナルトヨミシナルベシ、一種ハ葉ツヨクアツシ、莖皮カサナラズ、

〔和漢三才圖會九十五〕木藜蘆

黃藜蘆

鹿驪俗云濱木綿、又云濱芭蕉○中

按木藜蘆南紀海濱溪澗有之、高二尺許、莖葉微似芭蕉而狹長、又似蜀黍ナバンキ苗有淺黑皮、裹蘆數片層層夏抽、莖開黃花、不如藜蘆花之艷、性畏寒、移植之於京、大坂多難茂、又以不甚美、人不爲珍、自古以藜蘆稱於毛止、故是亦呼曰濱於毛止、客誤而已、

〔筆のすさび上〕萬葉集四にある所の濱木綿といふ草は、一名濱芭蕉、一名濱をもと共云、廣東新語にのする所の文珠蘭なり、芭蕉に似て小なり、莖幾重となく重り、花は夏の末より秋に至て開く、極めて潔白なり、形百合のごとし、十二花漸々上へ咲上る、紀州熊野海邊に多く生ず、花盛の時、白木綿を見るがごとし、よつてはまゆふと名づく、